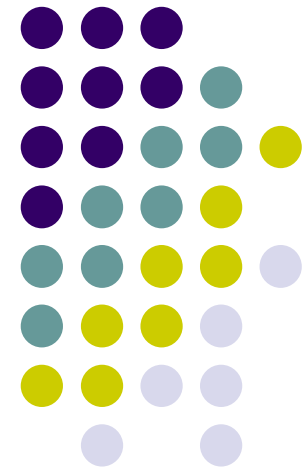


BCG接種時期及び 針痕数調査について(第3報)



宮崎市保健所

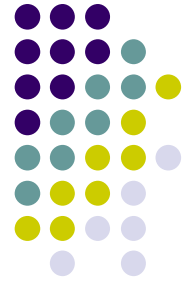
入田 薫、日高良雄(延岡保健所長)、湯元安男
竹迫正明、入船裕子、山田美智子、田山地麻里

西森由貴、愛甲和子



はじめに

BCGワクチン接種の現状



- ◆ **根拠**：感染症法
- ◆ **対象**：6か月未満の乳児
(平成17年4月から)
- ◆ **方法**：管針法によるダイレクトBCG
(ツベルクリン検査なし)
- ◆ **有効性**：結核性髄膜炎、粟粒結核等の重症結核
に高い有効性



BCG接種の課題

◆ 乳児期早期の接種が重要

乳児期の結核性髄膜炎、粟粒結核の防止
小児結核の根絶 のために

◆ 接種技術の評価としての針痕数調査が重要

経皮接種時の管針の押圧にバラツキ

BCG接種時期及び針痕数調査を実施した



対象と方法



◆**対象**：1歳6か月児健診対象者 492名

(平成19年10月、11月実施 全6回)

◆**方法**：問診：接種期日、接種医療機関、未接種の理由など

確認：室内蛍光灯下での目視

担当看護師には事前研修を実施

◆**解析**：17、18年度の調査結果との比較

12年度結核緊急実態調査結果等と比較

統計学的には t 検定と 二乗検定

($p < 0.05$ をもって有意差ありと判定)



結 果



対象者の内訳

受診者総数	436	(%)
BCG未接種者	1	(0.2)
BCG既接種者	435	(99.8)
解析対象者(19年群)	434	
接種日不明者	1	



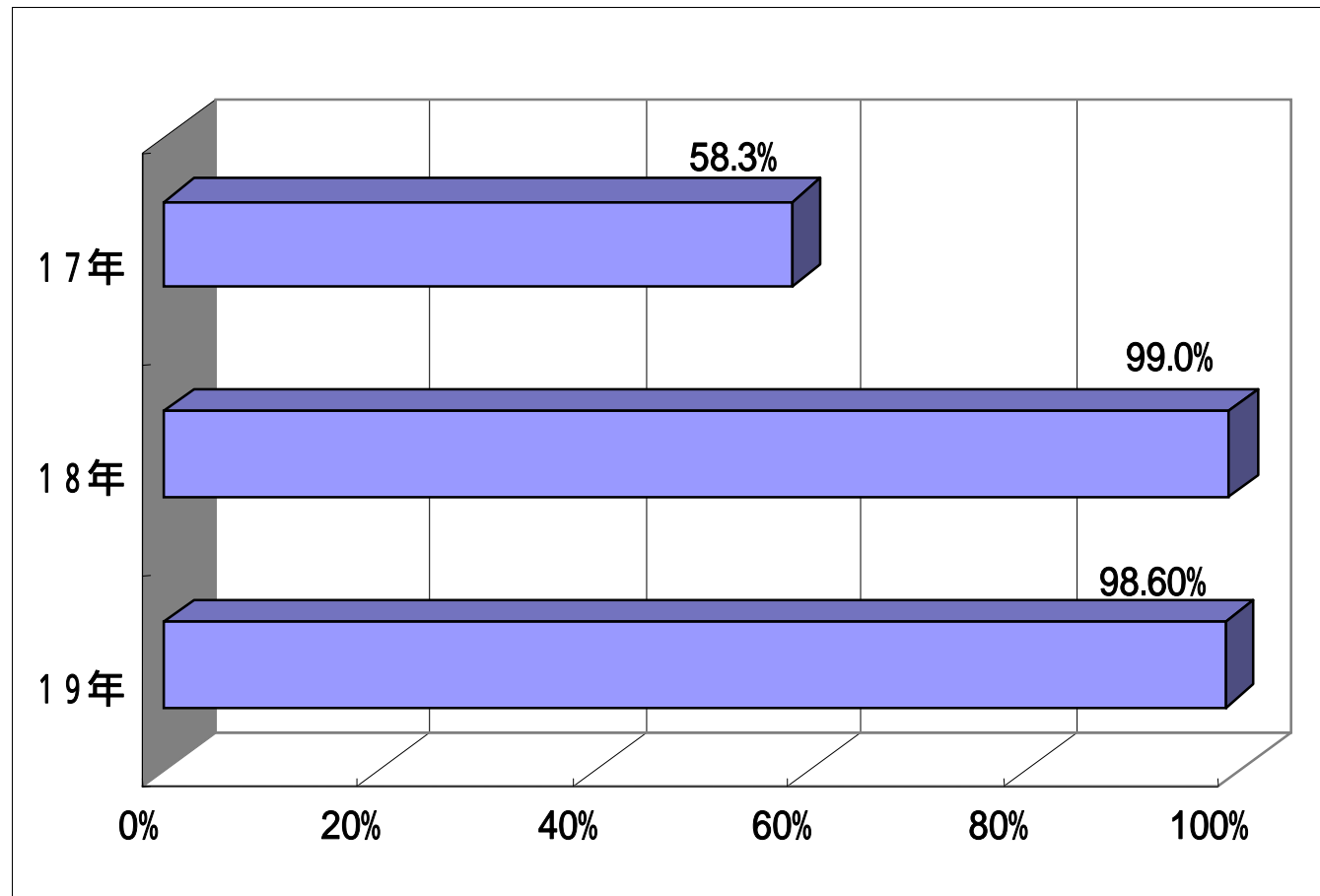
接種時期の評価

平均接種年齢の比較(3カ年)



	19年	18年	17年
平均接種年齢	125.2	122.8	197.8
標準偏差	34.9	31.5	78.4
最大	350	262	532
最小	61	62	70
生後6か月以内	428	416	271
(%)	98.60%	99.0%	58.3%

生後6か月までの 接種率(3ヵ年)





針痕数(接種技術)の評価



平均針痕数の比較

- ◆ 19年群

17.20 ± 2.13 個

- ◆ 結核緊急実態調査群(平成12年度調査)

12.5 ± 5.5 個(735名)

- ◆ 高松らの2001年調査

12.3個(2,871名 東京23区)

12.6個(357名 大阪市)

13.9個(1,250名 堺市)

14.8個(1,181名 高知市)



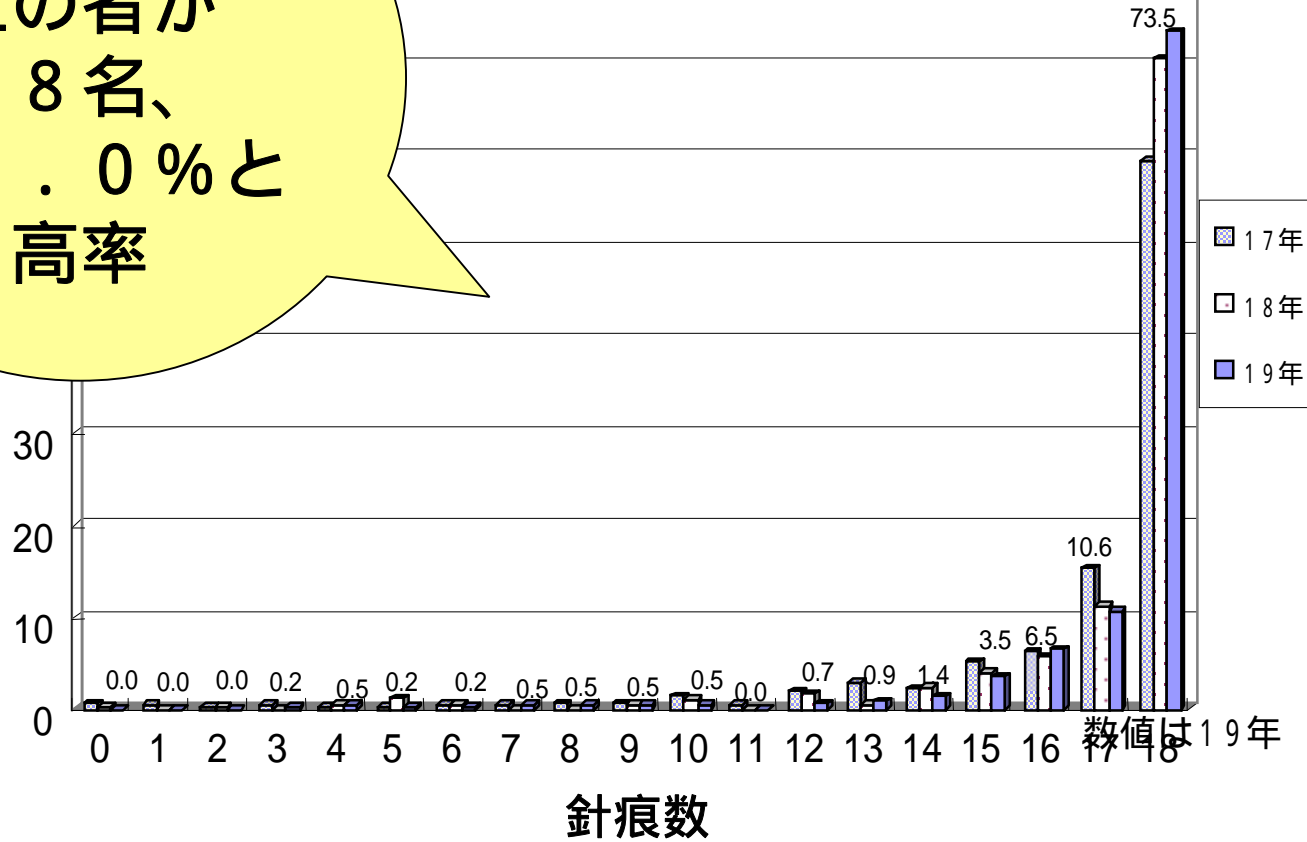
平均針痕数の比較(3カ年)

	19年	18年	17年
対象者数	434	420	465
平均針痕数	17.20	16.95	16.33
標準偏差	2.13	2.60	3.28
針痕数10個未満	11	13	24
(%)	2.5%	3.1%	5.2%
針痕数15個以上	408	384	397
(%)	94.0%	91.4%	85.4%

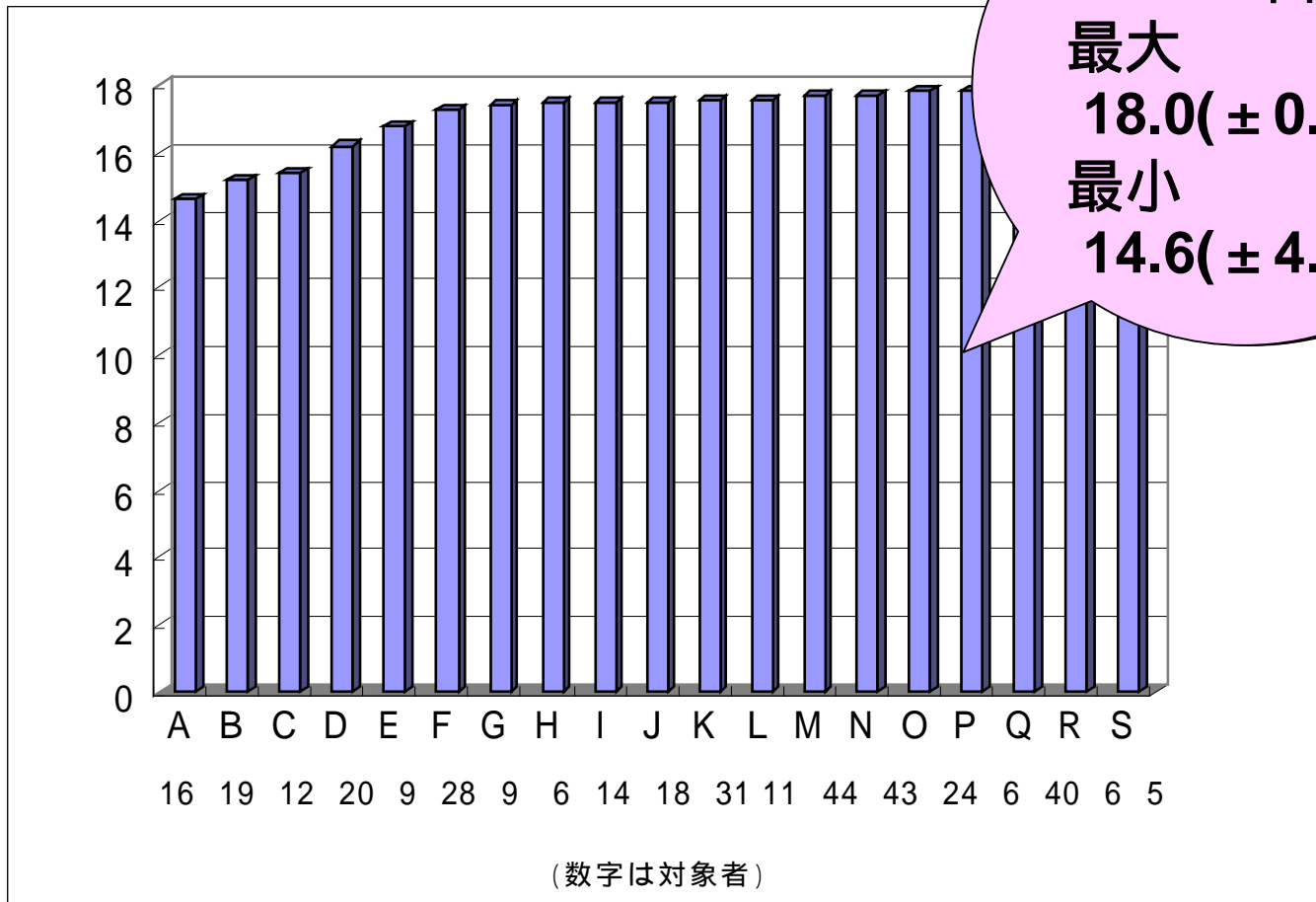
針痕数の分布比較(3ヵ年)



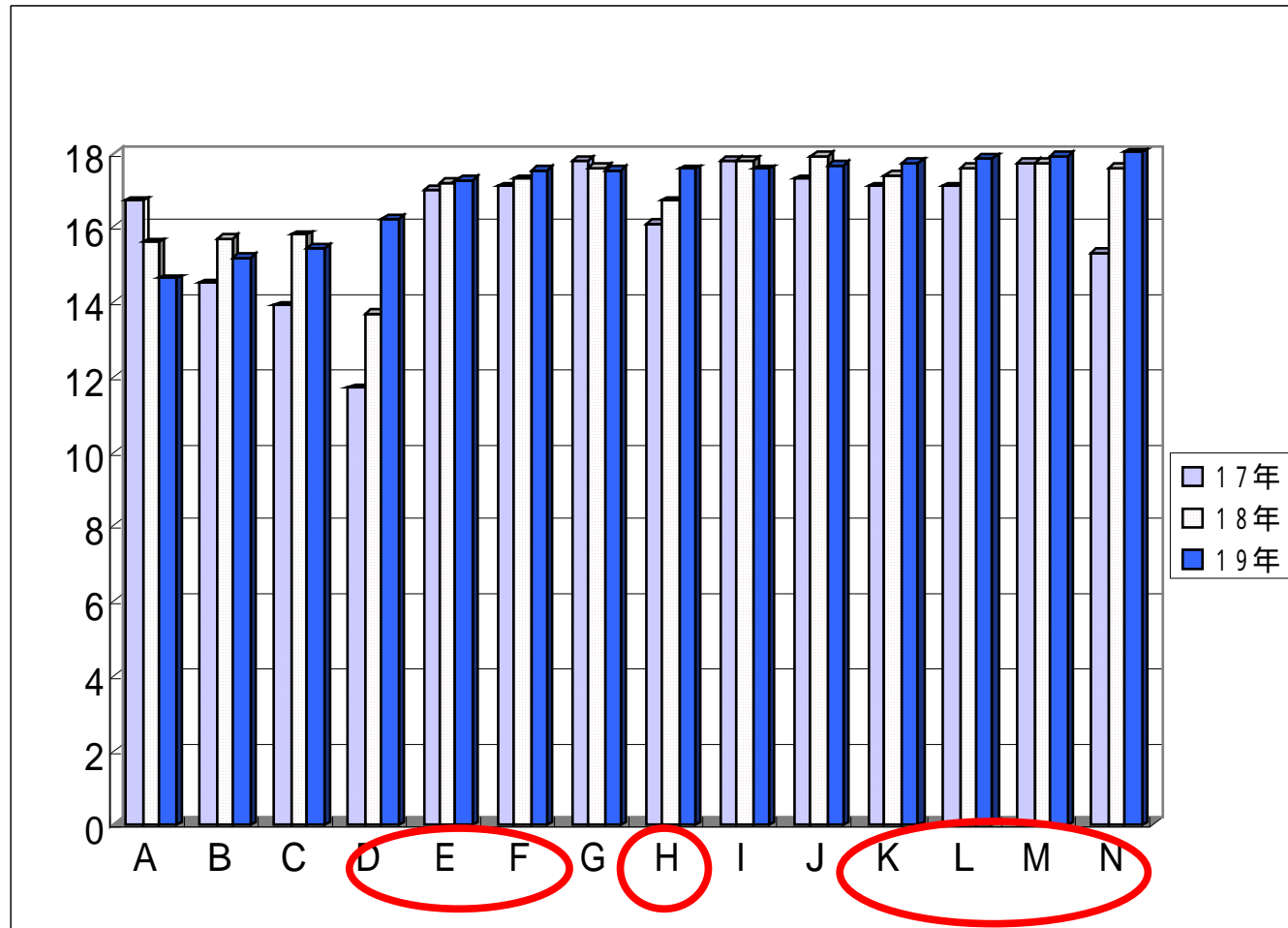
針痕数15個以上の者が
408名、
94.0%と
高率

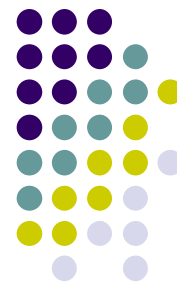


施設毎の平均針痕数



施設毎の平均針痕数比較(3ヵ年)





考察



◆ 生後6か月までの接種率

98.6%

早期接種の
定着化

◆ 平均針痕数

17.20 ± 2.13

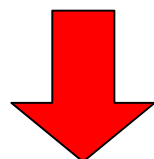
接種技術の
向上

◆ 針痕数15個以上の人数

408名 94.0%



平成7年～ BCG接種を
個別医療機関に委託して実施



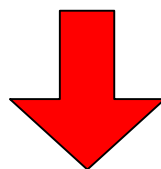
☺医師会における、予防接種研修会の実施

☺平成18年度から、宮崎市郡医師会及び5例以上の対象があった施設に対して全体の評価及び平

均針痕数をフィードバック



施設ごとの針痕数を比較した結果、
施設間に差が認められる...



- ◆ 今後とも定期的な調査を実施し、結果を関係機関にフィードバックしていきたい。
- ◆ 関係機関との一層の連携により、市民の健康管理に務めていきたい